

MOTOR SPORT REPORT

JRC/全日本ラリー選手権 2020年レポート

～最終戦 ツール・ド・九州を終えて～

2020年シーズンはPIAAサポートチームが最高峰JN1クラスで

奴田原選手・佐藤選手組/鎌田選手・鈴木選手組が各1勝をマーク！



JN5クラスでは小濱選手・東選手組が最終戦でヤリスでの今季初優勝を獲得！



最終戦でTOYOTA GAZOO RacingのGRヤリスがマーシャルカーとして登場！



■概要/Outline

国内外のレースシーンで多くのチーム、ドライバーをサポートさせて頂いてきたPIAAは、ラリー競技においてもWRC（世界ラリー選手権）で数多くのワークスチームをサポートするほか、国内最高峰シリーズのJRC（全日本ラリー選手権）においても、1981年に名門タスカエンジニアリング様と横浜ゴム様の

協力により ADVAN-PIAA Rally Team を結成して以来、アドバンのワークスドライバーとともに数々のタイトルを獲得している。

その勢いは 2020 年の JRC でも発揮され、新型コロナウイルスの影響により全 4 戦で争われることとなったが、最高峰の JN1 クラスでは ADVAN-PIAA Rally Team で三菱ランサーエボリューション X を駆る奴田原文雄選手、佐藤忠宜選手組が開幕戦の「新城ラリー」を制覇。さらにシーズン 2 戦目の「ラリー丹後」では itzz RALLY TEAM で VAB 型のスバル WRX STI を駆る鎌田卓麻選手、鈴木 裕選手組がシーズン初優勝を獲得するなど PIAA のサポートチームが連勝を果たした。

一方、JN5 クラスでは MATEX-AQTEC RALLY TEAM で今年デビューのトヨタ・ヤリスを駆る小濱勇希選手、東 駿吾選手組が最終戦の「ツール・ド・九州」でシーズン初優勝を獲得したほか、同じくツール・ド・九州では CUSCO RACING の水原亜利沙選手、高橋芙悠選手組がトヨタ・ヤリスを武器に JN6 クラスを初制覇するなど、他のクラスでも PIAA のサポートチームが躍進した！

さらにツール・ド・九州では PIAA がオフィシャルパートナーとしてサポートする TOYOTA GAZOO Racing が 0(ゼロ)カーおよび 00 (ダブルゼロ) カーとして、話題の新型モデル トヨタ GR ヤリスを投入。あくまでもマーシャルカーとしての出走だったが、来シーズンは JN1 クラスに参戦する予定となっているだけに、2021 年の JRC でも PIAA のサポートチームが躍進するであろう。

■レポート/Report

2020 年の JRC は開幕戦として予定されていた「ラリー婦恋」が 2019 年の台風の影響で中止となったほか、その後も新型コロナウイルスの影響により数多くのイベントが中止。その結果、全 4 戦の短期かつ少数のシリーズとしてタイトル争いが展開されることとなった。

当然ながら 1 戦のポイント価値が高くなり、取りこぼしのできないシリーズとなるなか、幸先の良いスタートを切ったのが ADVAN-PIAA Rally Team の奴田原選手、佐藤選手組だった。奴田原選手はこれまでに 10 度に渡って最高峰クラスでチャンピオンに輝いている JRC のトップドライバーで、2020 年も PIAA のライティングシステムおよび撥水シリコンゴムワイパーを装着した三菱ランサーエボリューション X で JN1 クラスにエントリー。3 月 13 日～15 日に愛知県新城市を舞台に開催された開幕戦のターマックイベント「新城ラリー」で圧倒的な速さを披露し、開幕勝利を達成した。



新城の優勝は ADVAN-PIAA ランサー（奴田原、佐藤選手組） ラリー丹後は itzz RALLY TEAM（鎌田、鈴木選手組）が優勝

その後は新型コロナウイルスの影響でシリーズが中断したが、シリーズが再開されてからも PIAA のサポートチームの勢いは続いた。復帰戦となったのは 7 月 31 日～8 月 2 日、京都府京丹後市を舞台に開催されたターマックイベントの「ラリー丹後」で、ここでは itzz RALLY TEAM の鎌田選手、鈴木選手組が躍進した。鎌田選手は 2005 年～2008 年の PWRC（プロダクションカー世界ラリー選手権）で活躍したほか、2014 年にはスバル BRZ を武器に JN5 クラスでチャンピオンを獲得したドライバーで、ラリー丹後では PIAA のライティングシステムおよび撥水シリコンゴムワイパーを装着した VAB 型のスバル

WRX を武器にシーズン初優勝を獲得。PIAA のサポートチームたちが 2 連勝を達成したほか、新城ラリーを制した奴田原選手が 2 位につけたことで PIAA サポートチームが 1-2 フィニッシュを達成した。

続く 9 月 12 日～13 日にシーズン 3 戦目として北海道帯広市を舞台に開催されたラベル戦の「ラリー北海道」では鎌田選手が 3 位、奴田原選手が 4 位に惜敗したほか、最終戦として 11 月 27 日～28 日に佐賀県唐津市で開催されたターマックイベントの「ツール・ド・九州」でも奴田原選手が 2 位、鎌田選手が 9 位にとどまったことからタイトル獲得には至らなかったが、両ドライバーは最後までタイトル争いを展開し、シリーズランキングでも奴田原選手、佐藤選手組が僅差の 2 位、鎌田選手、鈴木選手組が 4 位でフィニッシュした。

一方、激戦の JN5 クラスに目を向けると MATEX-AQTEC RALLY TEAM の小濱選手、東選手組が 2 戦目のラリー丹後から素晴らしいパフォーマンスを披露。PIAA のライティングシステムおよび撥水シリコンゴムワイパー、そしてアルミホイールを装着したニューマシン、トヨタ・ヤリスを武器に緒戦となったラリー丹後で 3 位、ラリー北海道で 2 位につけたほか、最終戦のツール・ド・九州ではシーズン唯一のナイトステージとなった SS2 を舞台に LED ランプを装着したヤリスでベストタイムをマークした。その後も好タイムを連発した小濱選手はツール・ド・九州を制し、ヤリスでの初優勝を獲得。



ラリー丹後で 3 位の KYB DUNLOP YARIS (小濱、東選手組) ツール・ド・九州は YARIS で初優勝の小濱、東選手組

さらに JN6 クラスでは CUSCO RACING の水原亜利沙選手、高橋芙悠選手組が PIAA の LED ランプを装着したトヨタ・ヤリスで安定した走りを披露している。新城ラリー、ラリー丹後で 3 位、ラリー北海道で 2 位につけるほか、ツール・ド・九州ではヤリスでの初優勝を獲得。さらに CUSCO RACING の兼松由奈選手、美野友紀選手組が PIAA の LED ランプを装着したニッサン・ノートを武器にラリー丹後で 2 位につけるとともに、ツール・ド・九州でも 3 位で表彰台を獲得、同じく CUSCO RACING の永井歩夢選手、竹下紀子選手組も PIAA のライティングシステムを装着し、4 位を獲得した。



最終戦 JN6 で優勝の水原、高橋選手組 (YARIS)、3 位の兼松、美野選手組 (NOTE)、4 位の永井、竹下選手組 (Vitz)

このように 2020 年の JRC でも各クラスで PIAA のサポートチーム、ドライバーが活躍。改めて PIAA のライティングシステム、撥水シリコンゴムワイパーおよびホイールのパフォーマンスの高さを示した。

なお、最終戦のツール・ド・九州では PIAA がオフィシャルパートナーとしてサポートする TOYOTA GAZOO Racing がオフィシャルカーとして注目のニューモデル、トヨタ GR ヤリスのラリー仕様車を投入した。ダブルゼロカーを TOYOTA GAZOO Racing のラリーチームで監督を務めるほか、開発ドライバーも担う豊岡悟志監督と、コドライバーとして JRC では勝田範彦選手などとタッグを組み、欧州ラリー選手権などでも経験豊富な足立さやか選手が担当した他、これまで GRMN ヴィッツで JN2 クラスを戦ってきた眞貝知志選手、安藤裕一選手組がゼロカーを担当し、PIAA の LED ライティングシステムを採用した2台の GR ヤリスが林道ステージを駆け抜けた。ともにレーシングスピードでの走行ではなかったが、軽量感がうかがえるリズムカルな走りを披露。2021 年は数台の GR ヤリスが JN1 クラスに参戦する見込みとなっているだけに、JRC では例年以上に激しいバトルが展開されることになるでしょう。



全日本ラリー選手権 ツール・ド・九州 2020 in 唐津 最終順位

※太字：PIAA 装着ユーザー

JN-1

- 1 新井 大輝/小坂 典嵩 ADVAN KYB AMS WRX
- 2 奴田原 文雄/佐藤 忠宜 ADVAN-PIAA ランサー
- 3 勝田 範彦/石田 裕一 ラックSTI 名古屋スバル DL WRX
- 4 新井 敏弘/田中 直哉 富士スバル AMS WRX STI
- 5 柳澤 宏至/保井 隆宏 ADVAN CUSCO ヤリスGR4
- 8 福永 修/齊田 美早子 アサヒ☆カナック☆オサム555 YARIS
- 9 鎌田 卓麻/鈴木 裕 itzz DL SYMS WRX STI

JN-2

- 1 中平 勝也/行徳 聡 DL 汎 R-ART 86 R3
- 2 中村 英一/大矢 啓太 名古屋トヨペット NAVUL Vitz
- R 上原 淳/漆戸 あゆみ メディトランセ DL シャフトシビックユーロ

JN-3

- 1 曾根 崇仁/竹原 静香 P.MU☆DL☆SPM☆INGING 86
- 2 竹内 源樹/木村 悟士 YH CUSCO 大阪冷研 BRZ
- 3 長崎 雅志/秋田 典昭 名古屋トヨペット NAVUL 86
- 5 山口 清司/丸山 晃助 jms エナペタル ADVAN 久興 86
- R 山本 悠太/山本 磨美 Sammy☆k-one☆ルプロス YH 86

JN-4

- 1 高橋 悟志/立久井 和子 ミツバ itzz DL マジカル冷機 スイフト
- 2 内藤 学武/小藤 桂一 BRIG Moty's YHG4 スイフト
- 3 西川 真太郎/原田 晃一 モンスターDL スマッシュ itzz スイフト

JN-5

- 1 小濱 勇希/東 駿吾 KYB DUNLOP YARIS
- 2 天野 智之/井上 裕紀子 豊田自動織機・DL・ヴィッツ
- 3 岡田 孝一/石田 一輝 キーストンナビゲーターDL デミオ
- 7 富本 諒/竹藪 英樹 ARTA オートボックス ヴィッツ
- 11 毛受 広子/草加 浩平 KYB DUNLOP Vitz

JN-6

- 1 水原 亜利沙/高橋 芙悠 DUNLOP CUSCO YARIS
- 2 海老原 孝敬/遠藤 彰 スマッシュ DL itzz GP アクア
- 3 兼松 由奈/美野 友紀 DUNLOP CUSCO NOTE
- 4 永井 歩夢/竹下 紀子 DUNLOP CUSCO V i t z

■PHOTO GALLERY



ADVAN-PIAA LANCER 大型ランプポッドと撥水ワイパーブレードを装着

2020年シーズンは最終戦までシリーズチャンピオン争いを演じ、惜しくもシリーズ2位でフィニッシュ。

ランサーEVO X をドライバーの奴田原選手のドライビングテクニック、コドライバーの佐藤選手との絶妙のコンビネーションでポテンシャルを引き出し、タスカエンジニアリングの山田チーフメカニックが丹精込めて熟成を重ねて作り上げた世界一のエボX！



Itzz RALLY TEAM の鎌田、鈴木選手組の SUBARU WRX



JN5 クラス #33KYB DUNLOP YARIS で初優勝の小濱、東選手組は PIAA の LED ランプとアルミホイールを装着！
LED ランプはテスト時のレインコンディションで改善の余地があることがわかったが、今回はドライコンディションだったため、視界は十分確保できたとの事。今後は仕様設定、数量などの熟成が求められる。



JN5 クラス #43 KYB DUNLOP Vitz の毛受広子選手、草加浩平選手組は PIAA の HID ランプとアルミホイールを装着！
ヘッドライトは最新の LED バルブを装着し、HID ランプと相まってひと際明るさが目立っていた。



JN5 クラス #40 KYB DUNLOP Vitz の渡部哲成選手、佐々木裕一選手組も PIAA の LED ランプとアルミホイールを装着！



JN3 クラス jms エナペタル ADVAN 久與 8 6 の山口清司選手、丸山晃助選手組も長年 PIAA の HID システムを装着！



JN5 クラス ARTA オートボックスヴィッツの富本 諒選手、竹藪英樹選手組も PIAA の HID システムを装着！



JN1 クラス アサヒ☆カナック☆オサム 5 5 YARIS にも PIAA HID システムを搭載



JN6 クラス DUNLOP CUSCO NOTE 兼松、美野選手組には PIAA の HID システムを装着、ヘッドライトだけでナイトステージを走破。



JN6 クラス DUNLOP CUSCO Vitz に PIAA LED ランプ



JN6 クラス DUNLOP CUSCO YARIS にも PIAA LED バルブ



JN6 クラス DUNLOP CUSCO Vitz に PIAA HID ヘッドライトと LED バーランプを装着





JN6 クラス優勝の水原、高橋選手組



JN6 クラス3位の兼松、美野選手組



0(ゼロ)カーはGR YARIS(眞貝、安藤選手組)にはPIAA LEDランプを4灯搭載



00(ダブルゼロ)カーもGR YARIS(豊岡、足立選手組)にもゼロカーとは配列を変えたPIAA LEDランプを装着



LEDランプの搭載仕様は2021シーズンに向け熟成が求められる

GR YARISがラリーカー仕様で公道を走る姿はワクワク！



今シーズンの新城ラリーでは競技マシンとして参戦していた TGR Vitz GRMN も PIAA HID システムを装着して登場！

以上のように、2020年シーズンは新型コロナ感染防止対策のため、全日本ラリー選手権もスケジュール変更や中止となった大会が多数ありましたが、11月末にはツール・ド・九州 in 唐津として佐賀県を舞台に最終戦として無事開催されました。各大会の主催者様、関係者様、地域の皆様、エントラントの皆様、そしてファンの皆様のご協力によりシーズンを締めくくることが出来たものと思います。

この場をお借り致しまして心より感謝申し上げます。

弊社は長年ラリー競技、レース競技等々に微力ながら携わらせて頂いておりますが、早くこの新型コロナ感染防止対策が効果を発揮して、モータースポーツイベントをはじめ、皆様方の生活が平穏な良い方向に戻ることを切に願っております。

今シーズンもご声援 誠にありがとうございました。